



スキー協通信

東京都勤労者スキー協議会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2大住ビル4F 03-3971-4144
 ホームページ：<http://www.tokyoskikyo.org/> E-mail：info@tokyoskikyo.org
 ゆうちょ銀行口座： 00110-7-88004（東京都勤労者スキー協議会）
 00140-5-659281（東京スキー協スキーメイト係）
 広報局専用 E-mail：skikyo_koho@yahoo.co.jp

No.434

発行

2021. 5. 1

発行責任者

出崎福男

東京スキー協 教育技術局技術部 シーズンファイナルキャンプ

4月3日（土）～4日（日）の2日間、東京スキー協教育技術局技術部のシーズンファイナルキャンプを志賀高原横手山・渋峠を会場に開催しました。技術部は「東京スキー協会員のスキー技術向上のサポートをすることを主な目的」として、9クラブ11名の部員で構成されていますが、今回は長谷川仁、高橋勝美、伊藤正明、聞間至、村本博司、川上咲子、福島明（敬称略）の7名が出席しました。

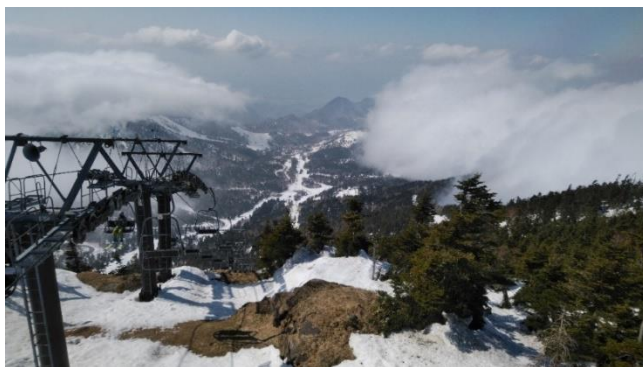


今回のキャンプの 雪上でのメイン（ベース）テーマは、①基本ポジションの確認、

②谷足荷重の感覚確認とし、スキー板のたわみを引き出し、サイドカーブを活用して、常に板に垂直に力をかけられるポジションにいられることで疲れの少ないスキーが可能なことをいろいろなバリエーションを行いながら7名で検証していきました。そしてこれらのことがスキー教程のなかのプルークボーゲンから洗練の平行ルターンでどう使われているのかを確認していきました。

土曜日の夜は「シーズンでの講師活動からの問題意識の交流と教育技術局行事などの検討」、

「テクニカルフェスタのアンケートに基づく講師活動の振り返り」も行い、来シーズンにつなげる議論も行いました。



かなりお腹いっぱいになったと感じています。参加された部員からは「理解したこと、つかんだこと」、「自身の課題」、「感想」などをレポートとしてまとめていただいている最中で、関係者でこれを共有していきます。

目次

教育技術局技術部 シーズンファイナルキャンプ	1頁
リレーエッセイ「雪紋」／コロナ下に2名の山スキー愛好者が入会	2-3頁
連載 気候変動ー地球温暖化を理解する 第3回	3頁
志賀GSポールレッスン／5・6月のカレンダー	4頁

コロナ禍での2シーズンと これからの私

リレーエッセイ 雪紋

東京スキー協 副会長 小川 洋

全国スキー協は6月13日10時からZOOMを利用したオンラインで第32回全国総会を開催します。31回総会は2018年6月でしたので3年ぶりということになります。昨年開催年だったのですが新型コロナ感染対策で1年延長をさせていただきました。

この3年間はキューピットバレイでのサマーセミナーに始まり、50周年ウィーク準備・開催、後半は新型コロナ感染症対策に翻弄されました。全国大会やデモ選、昨年のサマーセミナー中止と中央研修会は開催したものの主要な行事が全て中止にせざるを得ませんでした。各都道府県においてもだいぶ苦労をしながらの2シーズンだったと想像できます。

その中でも知恵を絞りながら行事を開催したクラブ・ブロックに心から敬意を表したいと思います。何だかんだ言っても皆さん「スキーが大好き」なんですね。

コロナ禍の中でオンラインによる会議開催が飛躍的に前進しました。この間、東京の常任理事会をはじめ全国常任理事会や全国理事会はすべてオンライン会議となりました。少し寂しさも感じてはいますが、合理的で機能的。なによりも交通費がかからないことが財政的には大いに助かりました。これからもオンライン会議が主流になっていくとは思いますが、たまには全国の会員と顔を突き合わせて交流を深めたいものです。

私事ですが8月4日に定年も迎えます。年内は引き継ぎ含めて東京にいますが、来年1月には故郷に帰り「青森スキー協」の一員として新たな場所で活動を継続していきます。

東京スキー協（みなとしゅぶうる）に加盟して35年になりました。永いことお世話になりました。東京スキー協の益々のご活躍を祈念いたします。

コロナ下に2名の山スキー愛好者が入会

スキークラブこなゆき 山スキー委員 関谷正義

“雪があるのにスキーに行けない” コロナによる緊急事態宣言が発せられた今シーズンの初め、東京スキー協主催行事は中止となり、恒例の山スキー教室も全日程で中止を余儀なくされました。

このような中、1月と2月に相次いでクラブへの入会申し込みがありました。これまでに山スキー教室に参加されていた岩井さんと矢作さんで、入会の動機は、“クラブに入って山スキーを続けるため”でした。山スキー教室の時に、クラブの会報を渡したり、行事報告が載った「東京スキー協通信」を送っていたことが、クラブやスキー協の様子が分かり参考になったのかもしれない。

二人の入会を受けて、クラブの山スキー担当者は、宣言明けに歓迎行事を実施することを相談、3月27日～28日の「かぐら山スキー」と、4月16日～18日の「月山山スキー」を企画しました。かぐら山スキーには、岩井さんと4人の会員が参加、昨シーズン山スキーリーダー資格を取得した大津さんをリーダーに、神楽峰の中尾根北斜面を滑降しました。月山には、岩井さん、矢作さんと5人の会員が参加、4月10日にオープンしたばかりの月山スキー場から山頂をめざし、雄大な斜面を滑降しました。宿では、コロナ対策をとりつつ、山スキー談議に花を咲かせ、交流を深めました。



会員の減少傾向が続く中で、このような時期に新たな入会者を迎えられたことは、東京スキー協山スキー委員会による、長年にわたる地道な教室開催の継続があったからだと思います。今季は残念ながら大半の行事が中止になりましたが、コロナ収束後の再開を期して、多くの山スキー愛好者を迎えられよう、クラブとしても、山スキー教室の継続・発展を期して、できるだけ取り組みをしていきたいと考えています。



【連載】気候変動—地球温暖化を理解する

第3回 私たちに何ができるのか 考え 行動しよう



今シーズンの年末年始は、久しぶりにスキー場に雪の心配はありませんでした。しかし、その後はどうだったでしょうか。新型コロナ感染での緊急事態宣言が出される、などで思うようにスキーに行けなかったのでしょうかと感じられないが、シーズン後半はやはり雪が少なかったと思います。3月の平均気温も平年より2度以上高いと発表があり、全国的に桜の開花が早かった。だが、東北では桜が咲いた時にも積雪があり寒の戻りがありました。

ゲレンデの状況だけだとおぼろげながら雪が少ないと感じますが、山に入ると如実に感じます。10年前に比べると木の背が高い、育ったからではない積雪が少ないのです。また、雪が柔らかい、降雪量が少ないのでしまっています。山スキーの楽しみは、パウダースノーの滑降もその一つですが、雪が柔らかければ良いというものでもありません。根雪があって底がしっかりしていて、その上に柔らかい雪があってパウダースノーを楽しめる。春先のしっかりしまった安定した雪質の山野を楽しむのも山スキーの醍醐味だが、ここ数年はコース取りに苦労し、口を開けた沢に注意しながら滑らなくてはならないので気が抜けません。さらには、気温が上がると雪が緩み雪崩の危険性も高まりリスクが多くなっています。

これらは言うまでもなく気候変動・地球温暖化の影響です。温暖化は単に小雪だけではありません。局地的に大雪をもたらす生活に支障をきたします。夏は線状降雨帯が発生し局地的に大雨をもたらす、洪水を発生させたりします。気候変動は社会生活に被害を与え、世界中が温暖化を阻止するため対策がとられています。日本も温暖化の原因の一つ温室効果ガスの排出を2050年に実質0にすると宣言が出されました。しかし、政府は具体的な対策を示すことなく、福島原発の事故を教訓にするのではなく、原子力発電を推し進める姿勢で本当に2030年までに温室効果ガス排出を1990年比半減、2050年に0にすることが出来るのでしょうか？ また、私たちも政府の施策にだけ頼るのではなく、個人で何ができるのか、スキー協で何ができるのか、考え、行動することが大切です。

気候変動—地球温暖化の阻止は、他人任せでなく一人一人が取り組んでいきましょう。一説によるとこの10年が阻止できるかできないかの分岐点と言われています。後悔しないように肝に銘じましょう。

文章 吉田 安信

志賀GSポールレッスン 2021/4/17 - 18 (競技スキー委員会)

今シーズンの行事が計画通り開催できない中、吉岡大輔コーチの連続キャンプとして告知した効果もあり多くの参加を頂き開催にこぎつけました。日程調整の関係で4月後半の開催でしたが、融雪が進むなかぎりぎりまで使用するゲレンデの調整が続き、昨年の一の瀬ダイヤモンドスキー場から寺子屋スキー場に場所を移しました。



金曜夜半から降り続いた雨は夜が明けても強まることはあれ収まる様子はなく、数名が練習を回避。8名が指導を受け、レースでいかに板をロスなく滑らせるかを中心に、個々の課題をテンポよく説明してもらいました。ただ、ゴーグルに付着し視界を遮る雨には苦しめられました。

天気回復の願いを打ち消すような雨が夜半も続きましたが、朝には止み、霧が濃いながらもこの日は無事13人全員が練習に参加。9時営業開始と同時に準備を始め滞りなく練習へ、気温は低く4月のゲレンデとは思えないしっかり締まったバーンです。

寺子屋は適度な斜度や変化のあるバーンで、半日で10本以上滑り込む事ができました。昼食休憩時には雪が降ってきましたが、昨日とは違うトップシーズンを思わせる細かく乾いた雪でセット替え後の練習も順調に進み更に10本の練習が叶いました。

日曜日のみ参加の方や、今回初めてのゲート練習の方、経験の浅い方々も怪我もなく満足された面持ちで終了しました。帰り際のリフトの上では、風雪が強まってきたなか「リフト営業終了」の放送が聞こえ、宿で帰り支度が終わった頃には一の瀬エリアでも本格的な降雪でした。



思えば昨年、ここ志賀でのGSトレーニングの翌週から最初の緊急事態宣言、今回も開催翌週に三回目の宣言、厳しい状態が続きますが、吉岡コーチとの御縁が切れ目なく「継続」し、多くの方々に技術伝達して頂いている事に感謝です。(競技委員会 矢吹)

5・6月のカレンダー

5月	行事名	6月	行事名
3-4(月火)	鳥海山山スキー 中止	3(木)	常任理事会
15-16(土日)	乗鞍大滑降交流会 (有志行事)	12(日)	反核平和マラソン 中止
8-9(土日)	かぐらスプリングレッスン 中止	13(日)	全国スキー協定期総会
22(土)	関東ブロック技術部会	20(日)	理事会③
29(土)	指導員ミーティング 中止		
31(月)	通信発行/総務局会議		

編集後記 **エビ/シッポ**

森喜朗前五輪組織委員長の「女性が多いと時間がかかる」等の発言をきっかけに、ジェンダー平等についての社会的な関心が高まっています。ひるがえって、私たち東京スキー協における女性の位置はどうかと考えると、女性会員の比率に対して、理事会や各種役員の数はそれほど多くないのではないのでしょうか。もっと女性が参加し積極的に運営にたずさわっていくことが、スキー協の発展につながると思います。皆さんのクラブではどうでしょう。何となく「男社会」になってはいないか、見つめ直してみませんか。(小柳光雄)